

竹内和順
議員



○文化財の保護・保全・活用について
○勝山の高校生について

そのほかの質問
・健康の駅「湯ったり勝山」について

一般質問

問 勝山市の子育て支援は、ほとんどが乳幼児期、小学校、中学校までの子どもたちへの支援となっている。小学生や中学生に対するふるさと教育も

答 文化庁では、「文化芸術立国」の実現を目指し、観光名所として数多くの観光客が訪れる文化財について、障害のある人、高齢者を含むすべての人が、より快適に親しむことができる環境作りを目指す。文化財の活用のためのバリアフリー化の充実に努めている。市

の見解を伺う。
答 国史跡白山平泉寺では、平泉寺区と協力し、電動カートにより境内を迂回するルートで、拝殿前に行くことができるような取り組みを進めている。

また、重要文化財の旧木下家住宅では、障害者用スロープ等を整備したいと考えている。
さらに、車椅子でも利用できるトイレを建物に併設して作るなど、障害のある方や高齢の方を含む全ての方が、より快適に親しむことができるよう、文化財活用に向けて、取り組んでいきたい。

問 勝山市の高校生をどのようにか市の見解を伺う。
答 昨年度から、勝山高校と奥越明成高校の生徒と市長と語る会を開催し、大変有意義な語る会になっている。

さらに、平成30年度から勝山高校全生徒が3年間を通して勝山市を活性化するための研究・提案をする「勝山人」学習を導入することになり、その一環として、1年生が市役所に勝山の現状を調査に訪れ、市長の基調講演に加え、市役所全部局で高校生の質問に答えた。

問 勝山市の高校生をどのようにか市の見解を伺う。
答 昨年度から、勝山高校と奥越明成高校の生徒と市長と語る会を開催し、大変有意義な語る会になっている。

大事だが、将来をより考える時期である高校生も対象とすることで、将来的に勝山市と携わる人が増えるのではと考える。遠い未来を見据えての小学・中学生向け講座、近い未来への期待を込めて高校生向けの講座を並行して進めることも大事と考える。

吉田清隆
議員



○学校施設の長寿命化計画について
○登下校時の荷物の重さについて

そのほかの質問
・女性消防士の増員について

一般質問

問 児童・生徒の登下校時の荷物の重さが話題になり、教科書を学校に置

答 付属ソフトは長寿命化計画策定に必要な一部の情報整理に活用できるが、計画策定には、施設の老朽化状況の把握が重要であり、現状把握だけでなく、現況の把握が必要となる。更に劣化の進行状況や、維持管理コストの算出及び改修の優先順位付けなどの判断をする

問 児童・生徒の登下校時の荷物の重さが話題になり、教科書を学校に置

いたまま帰宅する問題が起きた。いわゆる「置き勉」である。
荷物には、教科書、ノート、ドリル、文房具、体操着、書道や図工の用具、水筒、雨具等がある。
日本赤十字社医療センター長は「過大な負担が長時間続くと、背骨の椎間板に悪影響を及ぼす可能性がある」と指摘している。

問 児童・生徒の登下校時の荷物の重さが話題になり、教科書を学校に置

答 各学校では家庭学習に使わない教科書等は学校に置いて帰らせるよう指導するとともに、学校に置いてよいものを持ち帰るものを一覧表にして教職員間で共有することとした。

問 児童・生徒の登下校時の荷物の重さが話題になり、教科書を学校に置

問 児童・生徒の登下校時の荷物の重さが話題になり、教科書を学校に置